



HIROSAKI
UNIVERSITY

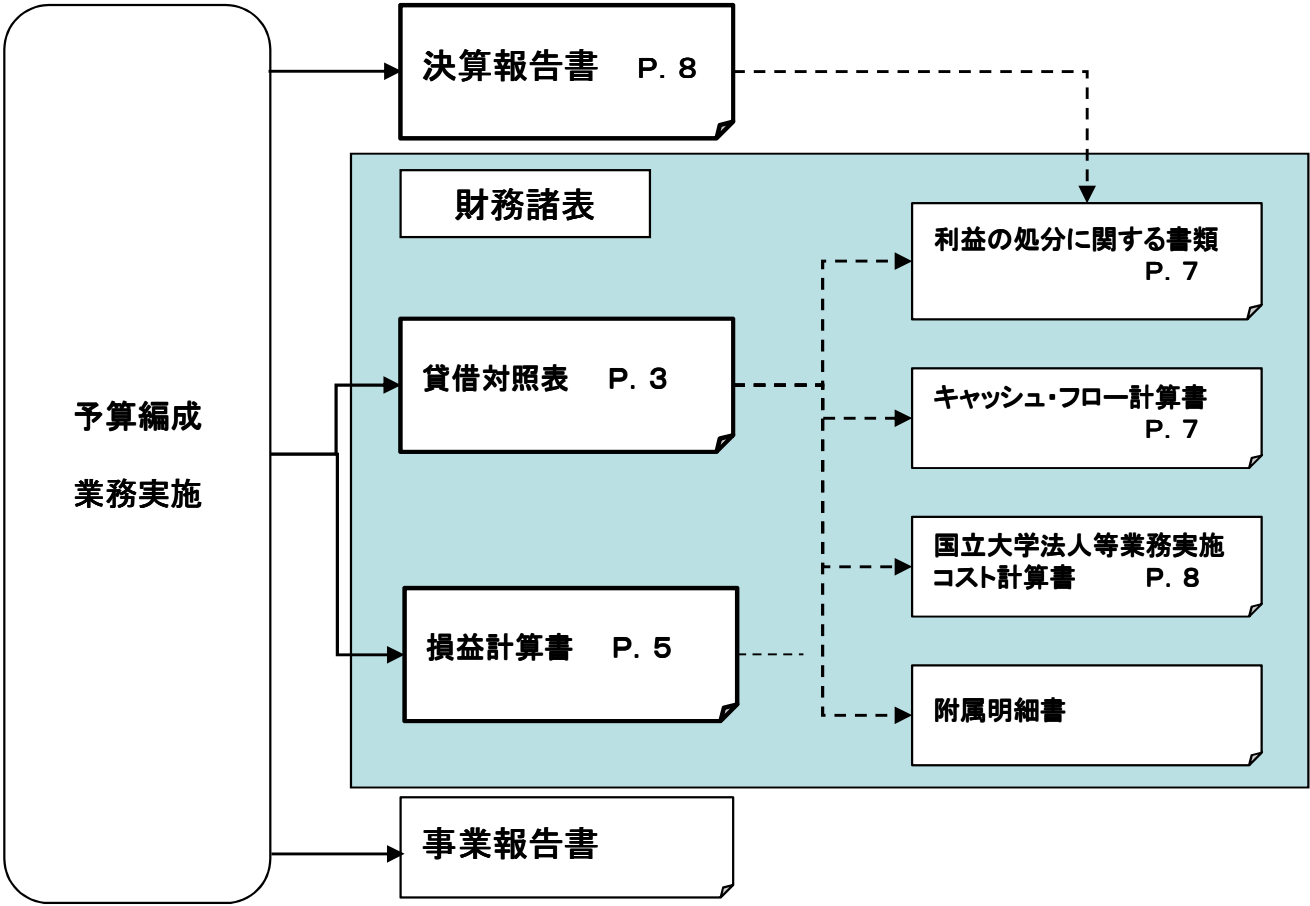
弘前大学

平成21事業年度

財務状況の概要

国立大学法人弘前大学

大学の業務と財務諸表



財務諸表	作成目的
貸借対照表	国立大学法人の財政状態を明らかにするために資産、負債、資本の科目を一表に集約した財務諸表です。業務運営に利用される資金の調達源泉とその資金が運用されている状態を知ることができます。
損益計算書	国立大学法人の運営状況を明らかにするために費用と収益を記載して、当期純利益及び当期総利益を計算した財務諸表です。業務の実施に費やした費用と得られた収益の状況を知ることができます。
利益の処分に関する書類	損益計算書により算定された当期総利益に前期繰越欠損金を差引きした当期未処分利益の処分内容を明らかにするために作成される財務諸表です。
キャッシュ・フロー計算書	資金の流れを業務活動、投資活動、財務活動の活動区分別に表示する財務諸表です。
国立大学法人等業務実施コスト計算書	業務運営に関して国民が負担するコスト情報を開示する財務諸表です。

平成21事業年度財務状況の概要

【貸借対照表】

(単位:百万円)

資産の部	79,478	負債の部	39,782
土地	19,640	資産見返負債	9,662
建物, 構築物	33,112	借入金	18,645
工具器具備品	8,089	運営費交付金債務	0
図書	4,388	寄附金債務	1,831
現金及び預金	9,460	未払金	8,895
有価証券	562	その他	749
未収附属病院収入	2,855		
その他	1,372		
		純資産の部	39,696
		資本金	25,532
		資本剰余金	7,511
		利益剰余金	6,653

【損益計算書】

経常費用	31,316	経常収益	32,334
業務費用	29,392	運営費交付金収益	10,014
教育研究経費	3,579	授業料, 入学金等収益	4,016
診療経費	9,691	附属病院収益	15,454
受託研究等	850	受託研究等収益	861
人件費	15,272	施設費収益	165
一般管理費	1,354	寄附金収益	382
財務費用	570	資産見返負債戻入	752
		その他	690
臨時損失	251	臨時利益	1,222
当期総利益	2,523	目的積立金取崩額	534

【貸借対照表】

資産は教育・研究及び診療等の業務を行うため所有する土地, 建物, 現金及び預金等で, 平成21事業年度末の総額は, 794億7千8百万円です。また, その他には, 建設仮勘定(建物竣工前)7千3百万円等が含まれます。

負債は借入金等の将来返済しなければならない金銭債務等で, 平成21事業年度末の総額は397億8千2百万円です。また, その他には, 前受金4億3千3百万円等が含まれます。

資産見返負債は, 支払義務のない負債で, 固定資産の取得時にその同額を取得財源から振り替え, 減価償却のたびに同額が負債から資産見返負債戻入という収益の勘定に振り替えられます。

また, 寄附金債務については, 寄附金を受け入れた時点では収益として認識せず, 負債(債務)として計上し, 業務費用としての支出額を取り崩して負債から収益へ振り替えます。

純資産は資産総額から負債総額を差し引いたもので, 平成21事業年度末の総額は396億9千6百万円です。

資本金は国からの出資によるものです。資本剰余金は大学の基礎的財産を構成するもので, 施設整備費補助金や目的積立金により取得した資産相当額等が含まれています。また, 利益剰余金は国立大学法人の業務活動から生じた利益で, 当期末処分利益25億2千3百万円が含まれています。

【損益計算書】

経常費用は大学の本務である教育・研究及び診療活動等に要した業務費用と, これらの業務を支える一般管理費, 財務費用(借入金利息等)で構成されています。

平成21事業年度の1年間で, 大学の業務運営に要した費用は313億1千6百万円です。

経常収益は1年間の業務運営に必要な収益で, 総額323億3千4百万円です。

収益は運営費交付金収益や施設費収益等の国から措置されたものと授業料, 入学金等収益や附属病院収益等の自己収入があり, 国からの措置額は約35%となっています。

経常利益は経常収益から経常費用を控除したもので, 上記の損益計算書に表記していませんが, 10億1千8百万円となっています。

臨時損失及び臨時利益は固定資産の撤去費用の支払いや除却損などの臨時損失のほか, 運営費交付金等の精算のための収益化額11億8千3百万円が臨時利益に含まれています。

目的積立金取崩額は経常費用及び臨時損失のうち, 目的積立金により費用が発生した額を取り崩したものです。

当期総利益は総収益額(経常収益+臨時利益+目的積立金取崩額)から, 総費用額(経常費用+臨時損失)を控除したもので, 25億2千3百万円となっています。

貸借対照表の概要

(単位:百万円)

項目	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	平成21事業年度 (H22.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
資産の部	73,149	79,478	6,329 (8.65)
固定資産	61,873	65,838	3,965 (6.41)
土地	19,640	19,640	0 (0.00)
建物, 構築物	30,936	33,112	2,176 (7.03)
工具器具備品	5,164	8,089	2,925 (56.64)
図書	4,323	4,388	65 (1.50)
建設仮勘定	581	74	△ 507 (△ 87.26)
投資有価証券	562	362	△ 200 (△ 35.59)
その他	667	173	△ 494 (△ 74.06)
流動資産	11,276	13,640	2,364 (20.96)
現金及び預金	7,819	9,460	1,641 (20.99)
未収附属病院収入	2,658	2,855	197 (7.41)
有価証券	500	200	△ 300 (△ 60.00)
その他	299	1,125	826 (276.25)

【資産】

資産総額は63億2千9百万円増加の794億7千8百万円となっています。

《特筆すべき点》

①建物, 構築物

創立60周年記念会館「コラボ弘大」及び「高度救命救急センター」の竣工等に伴い40億9千万円の増加となりましたが、減価償却等で19億1千4百万円減少し期末残高は331億1千2百万円となっています。

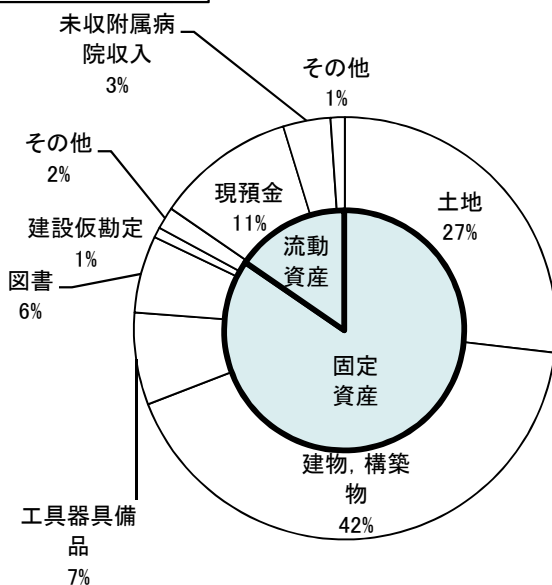
②工具器具備品

補正予算により学内LAN設備や放射線安全管理システムなどの基盤的設備を整備したほか、高度救命救急センターに係る診療設備を整備したこと等で、45億6千4百万円の増加となりましたが、老朽設備の除却や減価償却等で16億3千9百万円減少し期末残高は80億8千9百万円となっています。

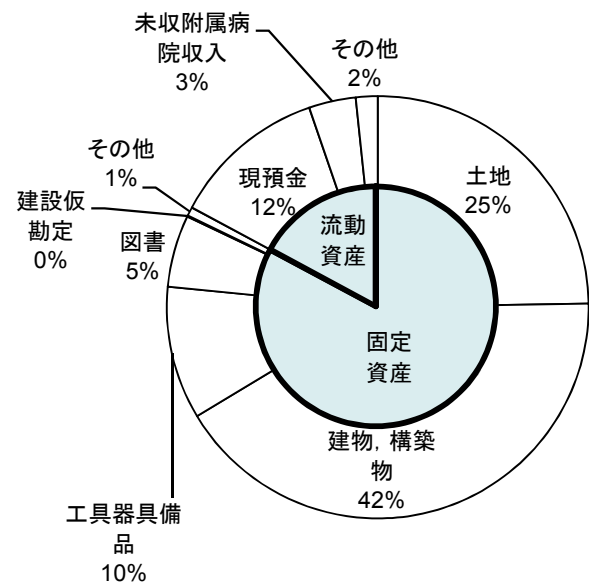
③現金及び預金

高度救命救急センターの竣工や総合研究棟(教育系及び臨床医学系)の耐震工事の完了に伴い、工事代金支払いのため借入金及び補助金を受け入れたことなどで期末残高は16億4千1百万円増加の94億6千万円となっています。

平成20事業年度



平成21事業年度



(単位:百万円)

項目	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	平成21事業年度 (H22.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
負債の部	35,805	39,782	3,977 (11.11)
固定負債	25,673	28,055	2,382 (9.28)
資産見返負債	6,888	9,662	2,774 (40.27)
借入金	17,172	17,223	51 (0.30)
長期未払金	1,509	1,092	△ 417 (△ 27.63)
その他	104	78	△ 26 (△ 25.00)
流動負債	10,132	11,727	1,595 (15.74)
運営費交付金債務	872	0	△ 872 (△ 100.00)
寄附金債務	1,600	1,831	231 (14.44)
借入金	1,762	1,422	△ 340 (△ 19.30)
未払金	5,187	7,803	2,616 (50.43)
その他	711	671	△ 40 (△ 5.63)
純資産の部	37,344	39,696	2,352 (6.30)
資本金	25,532	25,532	0 (0.00)
資本剰余金	5,758	7,511	1,753 (30.44)
資本剰余金	11,645	14,517	2,872 (24.66)
損益外減価償却累計額	△ 5,871	△ 6,990	△ 1,119 (19.06)
損益外減損損失累計額	△ 16	△ 16	0 (0.00)
利益剰余金	6,054	6,653	599 (9.89)
目的積立金	1,420	58	△ 1,362 (△ 95.92)
積立金	3,151	4,072	921 (29.23)
当期未処分利益	1,483	2,523	1,040 (70.13)

【負債】

負債総額は39億7千7百万円増加の397億8千2百万円となっています。

《特筆すべき点》**①資産見返負債**

補正予算による基盤的設備の取得等に伴い、期末残高は27億7千4百万円増加の96億6千2百万円となっています。平成21事業年度は補正予算(設備整備費補助金)により取得した固定資産14億2千3百万円などが計上されています。(資産見返負債は支払義務のない負債で、国立大学法人特有の会計処理であり、運営費交付金や補助金を財源として取得した固定資産と同額が計上されます。)

②借入金

平成21事業年度は17億6千2百万円の返済を行いました。高度救命救急センターの整備及び附属病院の基幹・環境整備に伴い、新たに14億7千3百万円の借入れを行ったため、固定負債で5千1百万円の増、流動負債で3億4千万円の減となり、合計2億8千9百万円の減少となっています。

【純資産】

純資産総額は23億5千2百万円増加の396億9千6百万円となっています。

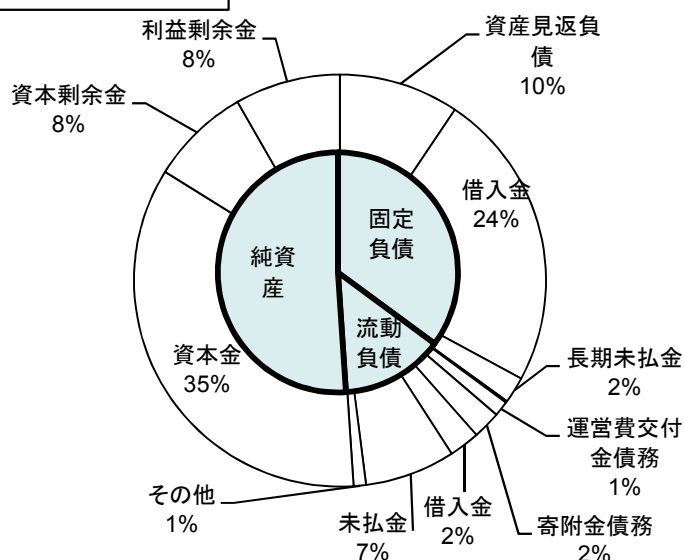
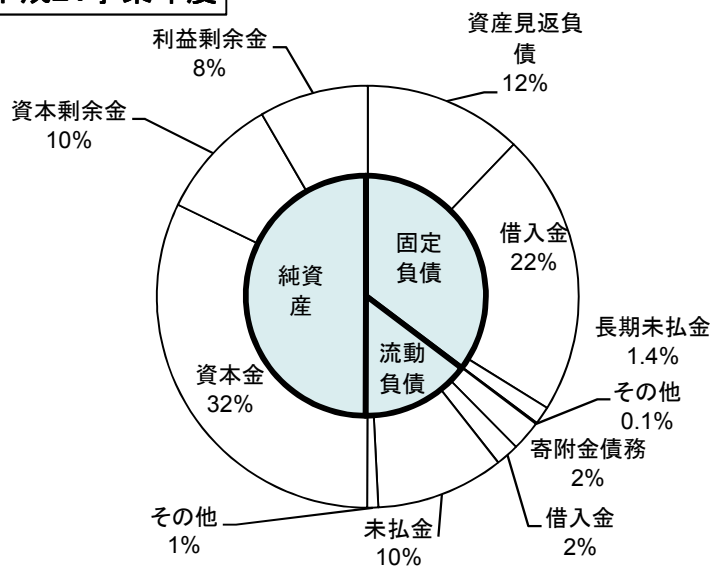
《特筆すべき点》**①目的積立金**

教育研究の質の向上及び組織運営の改善のため、「コラボ弘大」建設事業や北日本新エネルギー研究センター整備事業などに執行し、期末残高は13億6千2百万円減少の5千8百万円となっています。

なお、この5千8百万円は渡り廊下新工事前の金払分などとして既に支出済みですが、建物の竣工時に取崩すため、貸借対照表上残高となった額です。

②当期未処分利益

会計処理上発生する現預金の裏付けのない非資金的利益が13億4千万円、運営費交付金等を精算するため収益化を行ったことによる利益が11億8千3百万円となり、合計25億2千3百万円となりました。

平成20事業年度**平成21事業年度**

損益計算書の概要

(単位:百万円)

項目	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	平成21事業年度 (H22.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
経常費用	29,996	31,316	1,320 (4.40)
業務費用	28,293	29,392	1,099 (3.88)
教育経費	1,269	1,458	189 (14.89)
研究経費	1,171	1,623	452 (38.60)
診療経費	8,933	9,691	758 (8.49)
教育研究支援経費	291	498	207 (71.13)
受託研究費	675	679	4 (0.59)
受託事業費	168	171	3 (1.79)
役員人件費	94	96	2 (2.13)
教員人件費	8,619	8,373	△ 246 (△ 2.85)
職員人件費	7,073	6,803	△ 270 (△ 3.82)
一般管理費	1,066	1,354	288 (27.02)
財務費用	637	570	△ 67 (△ 10.52)
臨時損失	253	251	△ 2 (△ 0.79)

経常費用は13億2千万円増加の313億1千6百万円となっています。

《特筆すべき点》

①研究経費

研究拠点形成費等補助金事業や目的積立金による事業の実施等により4億5千2百万円増の16億2千3百万円となっています。

②診療経費

外来化学療法増加や循環器系手術増加に伴い、医薬品費や特定保険医療材料費が増加したことに加えて、高度救命救急センター及びNICU(新生児集中治療室)の整備を行ったこと等により7億5千8百万円増加の96億9千1百万円となっています。

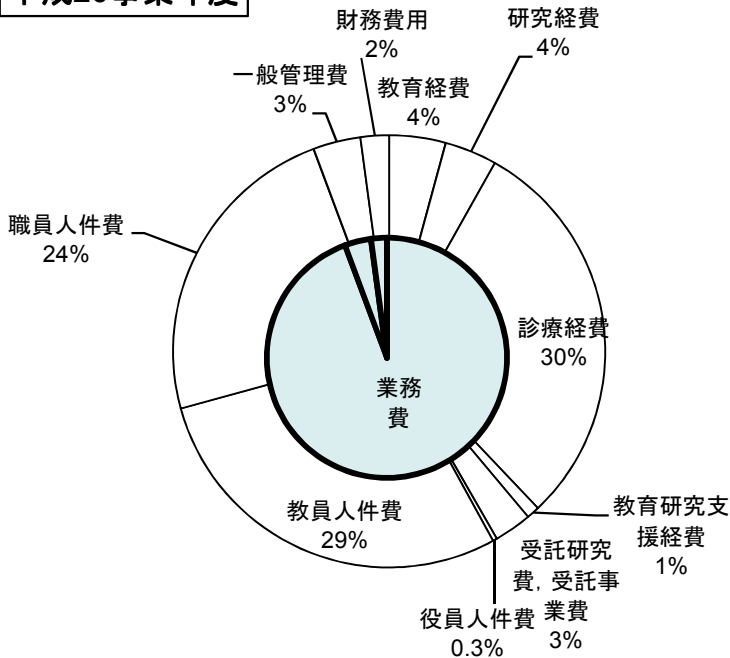
③人件費

退職手当支給額が減少したこと及び人事院勧告と同様の取扱いとしたことで賞与が減少したこと等により、教員人件費が2億4千6百万円、職員人件費が2億7千万円減少しています。

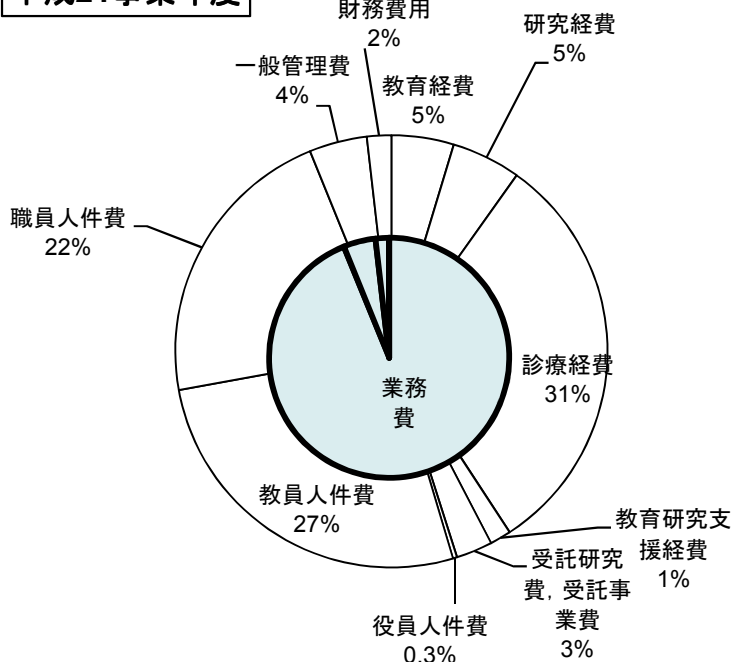
④一般管理費

「コロボ弘大」の竣工及び総合研究棟(教育系及び臨床医学系)耐震改修に伴う移転等の経費及び50周年記念会館の改修などで2億8千8百万円増加の13億5千4百万円となっています。

平成20事業年度



平成21事業年度



(単位:百万円)

項目	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	平成21事業年度 (H22.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
経常収益	31,729	32,334	605 (1.91)
運営費交付金収益	10,631	10,014	△ 617 (△ 5.80)
授業料, 入学金等収益	4,019	4,016	△ 3 (△ 0.07)
附属病院収益	14,716	15,454	738 (5.01)
受託研究等収益	679	688	9 (1.33)
受託事業等収益	165	173	8 (4.85)
施設費収益	288	165	△ 123 (△ 42.71)
寄附金収益	440	382	△ 58 (△ 13.18)
資産見返負債戻入	518	752	234 (45.17)
その他	273	690	417 (152.75)
臨時利益	1	1,222	1,221 (122,100.00)
目的積立金取崩額	2	534	532 (26,600.00)

経常収益は6億5百万円増加の323億3千4百万円となっています。

《特筆すべき点》

①運営費交付金収益

運営費交付金の収益化可能額は、退職手当の減少及び効率化係数による減少などで運営費交付金収益は6億1千7百万円減少の100億1千4百万円となっています。

②附属病院収益

循環器系手術件数の増加や外来化学療法件数の増加などに加え、経営改善に努め外来及び入院診療単価がともに増となったことなどにより、7億3千8百万円増の154億5千4百万円となっています。

臨時利益は12億2千1百万円増加の12億2千2百万円となっています。

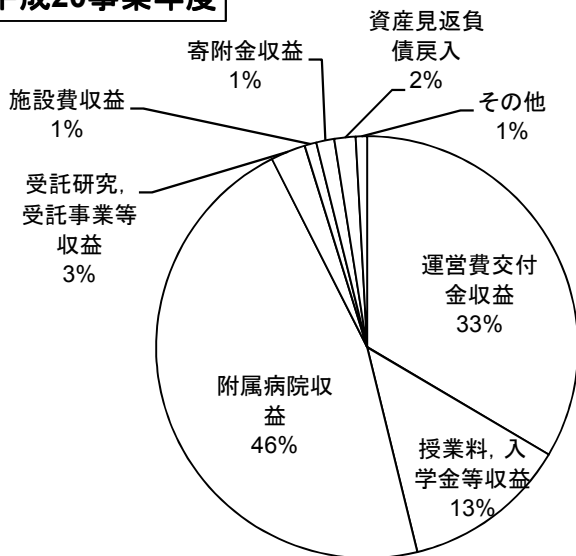
《特筆すべき点》

①臨時利益

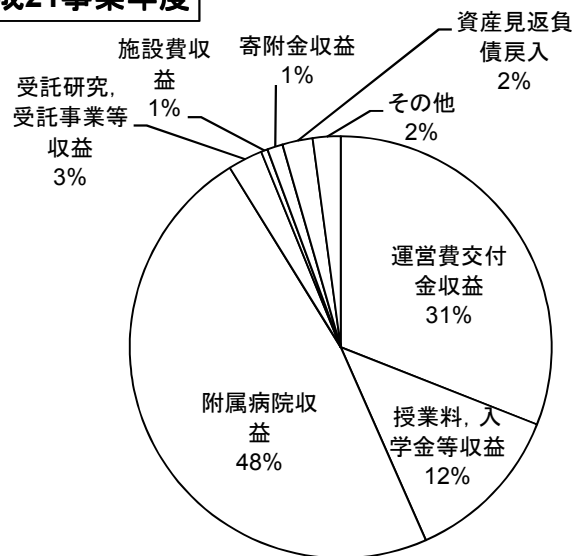
運営費交付金等の精算のための収益化などにより12億2千2百万円となっています。

このうち、退職手当などの事項指定された運営費交付金及び承継剰余金債務の未使用額11億8千3百万円は、積立金として整理したあと国庫納付することになります。

平成20事業年度



平成21事業年度



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

項目	平成20事業年度	平成21事業年度	対前年度増減(率:%)
業務活動によるキャッシュ・フロー	4,598	6,281	1,683 (36.60)
原材料等購入による支出	△ 9,763	△ 11,110	△ 1,347 (13.80)
人件費支出	△ 16,139	△ 15,723	416 (△ 2.58)
その他の業務支出	△ 1,231	△ 1,344	△ 113 (9.18)
運営費交付金収入	11,313	11,249	△ 64 (△ 0.57)
附属病院収入	14,573	15,262	689 (4.73)
学生納付金収入	3,933	3,993	60 (1.53)
外部資金収入	1,705	3,730	2,025 (118.77)
その他	207	224	17 (8.21)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,008	△ 3,764	△ 1,756 (87.45)
有価証券の取得による支出	△ 111	0	111 (△100.00)
有価証券の償還による収入	609	500	△ 109 (△ 17.90)
固定資産の取得による支出	△ 4,340	△ 5,930	△ 1,590 (36.64)
定期預金の預入による支出	△ 13,000	△ 2,500	10,500 (△80.77)
定期預金の払戻による収入	12,500	2,500	△10,000 (△80.00)
施設費による収入	2,302	1,654	△ 648 (△28.15)
その他	32	12	△ 20 (△62.50)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,651	△ 1,376	1,275 (△48.10)
借入金の納付による支出	△1,770	△ 1,762	8 (△ 0.45)
長期借入れによる収入	275	1,473	1,198 (435.64)
リース債務の返済による支出	△ 518	△ 512	6 (△ 1.16)
利息の支払	△ 638	△ 575	63 (△ 9.87)
資金増加額(減少額)	△ 61	1,141	1,202 (△1,970.49)
資金期首残高	7,880	7,819	△ 61 (△ 0.77)
資金期末残高	7,819	8,960	1,141 (14.59)

①業務活動によるキャッシュ・フロー

補正予算による補助金収入などが前年度に比べ20億1千1百万円増加しているため、外部資金収入が20億2千5百万円増加しています。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

補正予算などの固定資産の取得による支出が前年度に比べ15億9千万円増加しています。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

高度救命救急センター整備に係る借入れにより長期借入金による収入が前年度に比べ11億9千8百万円増加しています。

④資金期末残高

投資活動によるキャッシュ・フローが減少したものの、業務活動及び財務活動によるキャッシュ・フローが増えたため11億4千1百万円増の89億6千万円となっています。

利益の処分に関する書類(案)の概要

(単位:百万円)

項目	平成20事業年度	平成21事業年度	対前年度増減額(率:%)
当期末処分利益			
当期総利益	1,483	2,523	1,040 (70.13)
積立金振替額			
目的積立金	-----	58	-----
利益処分別			
目的積立金	563	-----	-----
積立金	920	2,581	1,661(180.54)

【参考】 ※利益処分別25億8千1百万円のうち、精算のための収益化額11億8千3百万円は、国庫納付となります。

(単位:百万円)

国庫納付計算書	
国庫納付金額	1,183

①当期総利益

借入金元金返済額と減価償却費相当額のタイムラグ等が要因の非資金的利益13億4千万円及び「精算のための収益化額」11億8千3百万円により25億2千3百万円となっています。

②積立金振替額

貸借対照表において目的積立金勘定残高となった5千8百万円を会計基準に従い積立金へ振り替えます。

③利益処分別

①当期総利益と②積立金振替額の計25億8千1百万円を積立金へ整理します。

国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要

(単位:百万円)

項目	平成20事業年度	平成21事業年度	対前年度増減(率:%)
業務費用	9,950	10,534	584 (5.87)
損益外減価償却相当額	1,037	1,131	94 (9.06)
損益外減損損失相当額	0	0	0 (-)
引当外賞与増加見積額	△ 28	△ 82	△ 54 (192.86)
引当外退職給付増加見積額	240	371	131 (54.58)
機会費用	405	435	30 (7.41)
(控除)国庫納付額	0	0	0 (-)
国立大学法人等業務実施コスト	11,604	12,389	785 (6.76)

国立大学法人等業務実施コスト計算書は、一会計期間に属する国立大学法人の業務運営に関し、国が負担したコスト(税金の投入)に係る情報を一元的に集約して表示したものです。

本学の業務実施コストは、前年度に比べて7億8千5百万円増の123億8千9百万円となっています。

①業務費用

損益計算書において研究経費、診療経費等が増加したこと等により増加しています。

決算報告書の概要

(単位:百万円)

項目	平成20事業年度	平成21事業年度	対前年度増減(率:%)
収入	35,425	40,488	5,063 (14.29)
運営費交付金	11,355	11,261	△ 94 (△ 0.83)
施設整備費補助金	2,249	1,601	△ 648 (△ 28.81)
補助金等収入	263	2,735	2,472 (939.92)
財務センター施設費交付金	53	53	0 (0.00)
自己収入	18,666	19,400	734 (3.93)
授業料等	3,933	3,993	60 (1.53)
附属病院収入	14,573	15,262	689 (4.73)
雑収入	160	145	△ 15 (△ 9.38)
産学連携等収入及び寄附金	1,930	1,891	△ 39 (△ 2.02)
引当金取崩	36	59	23 (63.89)
長期借入金	275	1,473	1,198 (435.64)
承継剰余金	0	32	32 (-)
目的積立金取崩	598	1,983	1,385 (231.61)
支出	34,247	39,549	5,302 (15.48)
業務費	26,071	28,444	2,373 (9.10)
教育研究経費	13,337	14,328	991 (7.43)
診療経費	12,734	14,116	1,382 (10.85)
一般管理費	1,584	1,682	98 (6.19)
施設整備費	2,577	3,127	550 (21.34)
補助金等	263	2,735	2,472 (939.92)
産学連携等経費及び寄附金	1,419	1,309	△ 110 (△ 7.75)
長期借入金償還金	2,333	2,252	△ 81 (△ 3.47)
収入－支出	1,178	939	△ 239 (△ 20.29)

決算報告書は、発生主義で作成する財務諸表とは異なり、国の会計に準じて現金主義により作成したものです。

①収入

収入は、50億6千3百万円増加の404億8千8百万円となっています。

・運営費交付金は、特別教育研究経費が4億3千1百万円増加しましたが、1%の効率化係数による減額で8千3百万円、特殊要因経費が退職者の減により3億9千1百万円の減少などとなり、9千4百万円の減少となっています。

・補助金等収入は、補正予算による設備整備費補助金等の獲得により24億7千2百万円の増加となっています。

・附属病院収入は、手術件数の増等により、6億8千9百万円の増加となっています。

・目的積立金取崩は、「コラボ弘大」建設事業等により、13億8千5百万円の増加となっています。

②支出

支出は、53億2百万円増加の395億4千9百万円となっています。

・教育研究経費は、目的積立金による事業の増等で、9億9千1百万円の増加となっています。

・診療経費は、医薬品費などの直接診療経費が7億6千3百万円の増、医療機器整備などの一般診療経費が5億9千9百万円の増などにより13億8千2百万円増加しています。

財務分析について

財務諸表の数値を活用することで、本学の債務支払能力や業務運営の効率性、発展性や教育研究経費及び一般管理費の水準等の状況を把握し、財務内容の改善や今後の大学運営に役立てるため、以下のとおり財務分析を行っています。

- 健全性**・・・流動比率は、運営費交付金債務の「精算のための収益化」をしたことにより、流動負債が減少したため高くなっています。また、自己資本比率については、補助金等で固定資産を取得したため、資産見返負債が増加し、低くなっています。
- 効率性**・・・人件費比率については、人件費が減少し、教育経費、研究経費、診療経費などそれぞれ増加したため低くなっています。一般管理比率については平成21事業年度は「コラボ弘大」の竣工や医学研究科及び教育学部の耐震改修といった移転費や建物新営に係る設備費が必要となる事業が多く、また、その他の改修も多かったため、高くなっています。
- 収益性**・・・診療経費比率は、増収に努めたことにより附属病院収益は増加していますが、それに伴う診療経費も増加したため低くなっています。経常利益比率は、目的積立金の執行による経常費用が増加し、経常利益が減少したため低くなっています。
- 発展性**・・・外部資金比率は、寄附金収益の減少に対し、経常収益全体は増加したため低くなっています。
- 活動性**・・・教育及び研究経費の比率は、教育経費、研究経費ともに補助金の獲得により増加したため高くなっています。
- キャッシュ・フロー計算書**・・・附属病院収入対長期借入金返済の比率については、返済財源である附属病院収入が増加したため、低くなっています。
- 業務実施コスト計算書**・・・業務実施コストが上がったため、学生一人当たりの国民負担額が高くなっています。

分析	指 標	平成20事業年度	平成21事業年度	増減	指標の判定
健全性	流動比率	111.29%	116.31%	+5.02ポイント	比率が高いほど、支払余力がある。
	自己資本比率	51.05%	49.95%	△1.10ポイント	比率が高いほど、債務の支払能力が高い。
効率性	人件費比率	55.79%	51.96%	△3.83ポイント	比率が高いほど、労働集約的な費用構造にある。
	一般管理費比率	3.77%	4.61%	+0.84ポイント	比率が高いほど、管理的経費が高い。
収益性	診療経費比率	60.70%	62.71%	+2.01ポイント	比率が低いほど、収益性が高い。
	経常利益比率	5.46%	3.15%	△2.31ポイント	比率が高いほど、収益性が高い。
発展性	外部資金比率	4.05%	3.85%	△0.20ポイント	比率が高いほど、外部資金への依存率が高い。
活動性	教育経費比率	4.48%	4.96%	+0.48ポイント	比率が高いほど、教育活動の割合が高い。
	研究経費比率	4.14%	5.52%	+1.38ポイント	比率が高いほど、研究活動の割合が高い。
キャッシュ・フロー計算書	附属病院収入対長期借入金返済	12.15%	11.54%	△0.61ポイント	比率が高いほど、長期借入金返済の割合が高い。
業務実施コスト計算書	学生当業務コスト	1,727千円	1,829千円	102千円	数値が高いほど、学生1人あたりの国民負担額が高い。

流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債

自己資本比率 = 純資産 ÷ (負債 + 純資産)

人件費比率 = 人件費 ÷ 業務費

一般管理費比率 = 一般管理費 ÷ 業務費

診療経費比率 = 診療経費 ÷ 附属病院収益

経常利益比率 = 経常利益 ÷ 経常収益

外部資金比率 = (受託研究等収益 + 受託事業等収益 + 寄附金収益) ÷ 経常収益

教育経費比率 = 教育経費 ÷ 業務費

研究経費比率 = 研究経費 ÷ 業務費

附属病院収益対長期借入金返済 = (長期借入金返済 + 財務経営センター納付金) ÷ 附属病院収入

学生当業務コスト = 業務実施コスト ÷ 学生実員 (大学院含む)